

【天気予報】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2014年	6.3	9.5	2.9	127.0
2015年	9.3	12.8	6.1	174.0
2016年	9.1	12.8	5.2	90.0
1981~2010年	8.3	11.9	5.0	45.9

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

1 麦(裸麦・小麦)

(1) 雑草防除

播種直後に除草効果が低下した場合や、ヤエムグラ等の広葉雑草などが生育期に残っている場合は、次の薬剤を使用し、雑草防除に努めて下さい。

薬剤名	使用時期	10a当たり		使用回数	適用雑草、使用上の注意など
		使用薬量	希釈水量		
ハーモニー75DF水和剤	播種後～節間伸長前(但しスズメタポウ5葉期まで)	5~10g	1000	1回	1年生広葉雑草、スズメタポウ隣接作物に飛散しないよう特に注意する。使用器具は使用後に消石灰500倍による水洗いを行う。
アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで(ヤエムグラ2~4節期、1~2月)	100~200ml	70~1000	2回以内	畑地1年生広葉雑草ヤエムグラに特効的であるが、イネ科雑草には効果がない。

(2) 排水対策の徹底

湿害防止のため、圃場の周囲及び圃場内に3~5m間隔に排水溝を設置し、表面排水を良くして下さい。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、雨水が排出されるようにして下さい。

(3) 麦踏み

根の浮き上がり防止、分けつや根張り促進の効果があります。麦の3葉期以降で土壌が乾いている時に、年内1回の麦踏みを実施して下さい。

2 水稻の作柄

(1) 平成29年産水稻の作況指数は東予地域は103(愛媛102)でした。

ア 早期水稻(コシヒカリ、あきたこまち)は、登熟期の気温が平年を上回って推移したことの影響を受け登熟がやや悪くなりました。

イ 普通期水稻(ヒノヒカリ、にこまる)は7月から8月にかけての多照で台風等の気象被害の少ない好条件と、9月以降の登熟初期からの気温低下で良好な登熟となりました。

(2) 平成30年産水稻の栽培計画は本年の作柄を振り返り、安定した良食味高品質米生産を目指して下さい。

<山橋>

【野菜】

1 さといも・やまのいも

(1) 土づくり

有機質の投入は、土づくりのためには重要な作業ですので、次の点に注意して行って下さい。

ア 年内に終了して下さい。

イ 完熟堆肥を投入して下さい。

ウ 投入量の目安は3t/10aです。

エ 投入後に、最低2回は深耕して下さい。

(2) さといもの貯蔵

疫病・軟腐病が発生しました。次年度の種芋貯蔵にあたっては、次の方法を検討して下さい。

ア 圃場選定

生育期間中、疫病による茎葉の損傷程度が少なく、軟腐病等による芋の腐りが見られない圃場や排水の良い圃場を選定して下さい。

イ 貯蔵方法

①圃場での貯蔵

「畝中」で貯蔵する場合は、株の上を初穀、土、又は不織布で被覆するなど、防寒対策を十分に行って下さい。

②生け込み貯蔵

掘り取り時に腐敗や害のの有無を十分に確認して、腐敗芋の混入を避けて下さい。

ウ 種芋量

今年は腐敗が多いため、種芋を平年より多めに確保して下さい。

(3) やまのいもの貯蔵

やまのいもは、排水の良い場所を選び、芋を60cm程度に積み上げます。乾燥防止のために10~15cmの覆土をし、その上を稲わら等で覆います。

2 タマネギ

除草剤散布

活着後、ゴーゴーサン乳剤300~500ml/10aを水70~1000(または、トレファノサイド乳剤200~300ml/10aを水1000)に希釈し、散布します。

除草効果を高めるため、土壌が乾燥している場合は、降雨後に散布して下さい。

3 ソラマメ

(1) 摘芯・誘引

親茎が7節程度に伸びた頃、生長点の柔らかい部分を摘心し、側枝の発生を促します。株元からの強い側枝が6本程度確保でき次第、支柱を設置し誘

引作業を行います。誘引して株元に光を入れることで同化能力が高まり、莢の肥大が促進されます。

(2) モザイク病

12月中旬頃まではアブラムシが飛来し産卵しますので、アブラムシの発生を確認した場合は、アドマイヤーフロアブル4,000倍やモスピラン顆粒水溶剤4,000倍等で防除して下さい。

<越智>

【果樹】

1 温州みかん

収穫は、果実品質のバラツキを避けるために着色が早い樹冠外周、上部から分割採取し、果実を丁寧に扱って、腐敗果の発生・混入を防いで下さい。

採取後は、着色促進、浮き皮・腐敗の発生防止のため、減量歩合2~3%を目安に予措します。

2 中晩柑類

(1) いよかん

樹冠外周、上部の着色の早い果実から、分割採取を開始します。着色が遅れる内部や裾成り果は分けて収穫、貯蔵することで、出荷時の果実品質のバラツキを抑制しましょう。

収穫した果実は減量歩合3~5%を目安に予措した後、本貯蔵を行います。貯蔵の目安は、1~2月出荷では温度8~9°C、湿度85%。3月出荷では温度6~8°C、湿度80~85%です。換気にも注意して下さい。

(2) 紅まどんな、甘平

紅まどんなは、果皮障害の発生に注意し、JAの出荷規格に従って収穫、出荷を行って下さい。

甘平は、先月に引き続き果実への袋掛けやサンテ被覆(8分着色以降)を行います。

(3) その他の品種

その他、袋掛けが必要な品種(せとか、不知火等)は、8分着色以降に袋掛けを行い、鳥害防止、低温による被害軽減及び退色防止に努めて下さい。

4 その他

収穫終了後は、耐寒性の向上と翌春の花芽分化を促すために、液肥の葉面散布を積極的に行いましょう。また樹勢がよい園では、12月中旬~1月中旬頃(厳寒期を避ける)、マシン油乳剤(95%)45倍を散布し、越冬害虫の防除に努めて下さい。

<本田>

【花き・花木】

1 フランキユラス(球根養成栽培)

(1) 苗床での追肥

本葉出葉後、葉色が薄くなり始める12月上旬頃に、くみあい液肥2号を400倍で2~3回追肥して下さい。

(2) 本圃準備・定植

定植期は12月下旬です。圃場のpHが適正值(6.5)より低い場合、苦土石灰を100~120kg/10a施用し、pHを矯正します。

また、連作圃場や土壌消毒した圃場では土壌がしまり固結気味となります。排水不良は後半の立枯れ等の多発要因となるので、完熟堆肥等を投入し土づくりに努めて下さい。

元肥は、ようりんを60kg/10a施用し、120cm幅で畝立てして定植します。定植30日後の1月下旬頃に、窒素成分を追肥で施用します。

2 アネモネ

(1) 害虫防除にアディオン乳剤2,000倍を散布します。

(2) キノコバエの幼虫(4mm程度)は有機質に富んだ土壌中に生息し、発芽後から双葉期の葉や根を食害します。

3 シキミ

輪紋葉枯病は、葉に赤褐色の同心円状の輪紋を生じ、症状が進行すると落葉します。病葉は早めに摘み取り焼却します。ベンレート水和剤2,000倍またはZポルドー500倍を散布します。樹幹が込み合い、通気性が悪いと同病が発生しやすくなります。

<日野>

【畜産】

農場の消毒について

気温の低下とともに、豚では豚流行性下痢(PED)、鶏では鳥インフルエンザの流行の時期となりました。農場・畜舎内へのウイルス侵入のため、衛生管理の基本である人、車両、畜舎の消毒を徹底しましょう。

衛生管理区域の出入口には消毒設備を設置し、車両出入りの際に消毒をします。(消毒機器がない場合には、消石灰帯を設置するようにしましょう。)

また、出入りする人には手指と靴の消毒を行わせたうえで、衛生管理区域専用の衣類と靴に交換します。養鶏場については、さらに鶏舎ごとの専用靴が必要です。

畜舎消毒の実施方法は、まず糞やほこりを取り除いてから水洗し、十分乾燥したうえで消毒を行います。消毒薬としては、逆性石けん(アストップ、パコマ、クリアキル等)、ヨード系薬剤(クリンナップA、ファインホール、ポリアップ等)、塩素系薬剤(ビルコンS、クレンテ等)アルデヒド制菌剤(エクスカット、ヘルミン等)などを目的に応じて使用します。

消毒後は、畜舎内に細菌やウイルスが侵入しないように注意しながら、十分な乾燥期間を取ることにしましょう。

冬期は乾燥に時間がかかることから、計画的に畜舎消毒を実施するように心がけて下さい。

<二神>